

熊 本 県 立 第 二 高 等 学 校

第4期 SSH研究開発計画

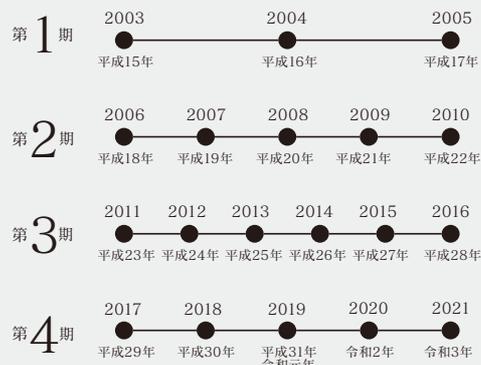
本校はSSH指定を4期(18年)行いました。その結果として...

指導者

- 理数科における科学系人材の指導法が確立出来た。
- 美術科、普通科へ探究活動が普及した。

生徒

- 課題研究の質が高まった。
- 卒業生の大学院進学率が高まった。



そのような中、2016年4月に熊本地震が発生しました。

本校は県内の公立学校で最も大きな被害を受け、学校のみならず生徒(家族)、指導者も大きな被害を受けました。

それでも懸命に、復興に向け主体的に行動する生徒の姿がありました。

3期(14年)の成果をさらに深化・継続する。



熊本地震の経験を復興の力にしたい。

第二高校はこれからも、
主体的に行動することのできる生徒像(人材育成)を目指し...



みつめる力

課題発見力
豊かな完成
柔軟な想像力

きわめる力

計画力
実行力
情報収集力・処理能力

社会との共創

つなげる力

主体性・協調性
知識融合力
社会貢献力

今期から効果測定として全ての教科で
「二高ICEモデル」による
評価

I=Ideas【習得】 C=Connections【活用】
E=Extensions【探究】

生徒：自分の成長を客観的に認知することができる
指導者：生徒の成長の段階を客観的に判断することができる



科学的視点から「熊本の創造的復興」を
リードする人材育成を研究開発課題とします。

研究テーマ1

「みつめる力」
「きわめる力」「つなげる力」を
向上させる探究科目の開発

- 理数科【SS=Super Science】
- 美術科【AS=Art Science】
- 普通科【GR=Global Reserch】

- 理数科の学校設定科目を発展・継続
SS、科学情報、科学家庭、科学英語
- 美術科に学校設定科目を親切
美術探究

研究テーマ2

「みつめる力」
「きわめる力」「つなげる力」を
向上させる探究型授業の開発

- モデル授業の開発により
全教科・全領域に探究型授業を推進する
- 「二高ICEモデル」で生徒の質的変容を捉える

- 授業開発部の設置
授業開発部とSSH部が連携して、
●全職員が、
主体的・探究的に学ぶ手法を共有する
- 二高ICEモデルにより
指導と評価を一体化する

研究テーマ3

探究の質を向上させる
外部連携の研究開発

- 外部(社会)と結びついた探究が、
知識や能力を育む「学びの相乗効果」

外部連絡先

- 熊本大学グローバル教育カレッジ
- 崇城大学 AL 大学教育再生加速プログラム(AP)
- 県内の高校
- 卒業生

- 平成28年熊本地震復旧・復興本部
- 自衛隊
- 日本赤十字
- 消防署
- 警察署
- 区役所
- 熊本大学くまもと
水循環・減災教育研究センター